

## 荒川智紀 小野研究室



私は今回の平成 23 年度若手研究者国際短期派遣事業においてフランスへ行ってきました。滞在中は三研究室を回り、いろいろなことを勉強させていただきました。今回の滞在の目的は大きく分けて二つあり、一つ目は共同研究で試料(カーボンナノチューブ)を作って下さっている研究室を訪れての研究の打ち合わせ、二つ目は現在私が立ち上げようとしている測定系の先駆者たちの技術を学ぶことでした。

今回の海外派遣は私にとってほぼ初めての海外滞在であり、しかも英語の通じない人も多いフランスということで、渡航前はかなりナーバスになりました。実際、町を歩いていると英語の通じる人はごくわずかだったので雰囲気で何とかしました。訪問先の研究室でもみんなが英語を話しているのかフランス語を話しているのかを聞き分けるのに一週間ぐらいかかってしまいました。そんな感じで普段感じないようなストレスも感じましたが、学ぶことは大変多かったです。例えば、フランスのワインは大変安くボルドー産のワインはとてもおいしい、フランス人はほとんどがコーヒーはエスプレッソであるなどです。芸術や建築物についてはもともと興味がありませんでしたが、やっぱり生で見ても何も新しい感情は生まれませんでした。一方、訪問先の測定系や測定技術がとても素晴らしく、心から行って良かったと思うと同時に今後の装置の立ち上げについての自信を得ることができました。

最後に、一つ実感したのはしゃべってみると外国の人でも本質的には変わりなく、言語の違いないということでした。もちろん、価値観や文化の違いはありますが普通に友達になれる人が多かったです。これは当たり前のことで頭では分かっていたはいましたが、何か自分の中の壁が壊れたような気がしました。

